

令和5年度 第6回 富田林市交通会議 議事録

日時：令和5年11月14日（火）午後2時～午後2時40分
会場：富田林市役所 2階 全員協議会室

●出席委員 20名

北川委員、中村委員、内田委員、鬼迫委員、伊東委員（安尾氏が代理出席）、高平委員
西田委員、宮本委員、野谷委員、岡端委員、松崎委員（中西氏が代理オンライン出席）
小川委員（松本氏が代理出席）、大久保委員、中塚委員、松田委員、金銅委員、北村委員、東委員、辻本委員、北浦委員

●欠席委員 9名

石田委員、南野委員、松田委員、松永委員、猪阪委員、湯口委員、北野委員、豊福委員、小野委員

●公開・非公開の別 公開

●傍聴人数 6名

●会議次第及び議事要旨

案件

- (1) 令和5年度第5回富田林市交通会議（書面）の開催結果について
- (2) 金剛バスの廃止に伴うレインボーバスの運行計画（案）について
事務局より資料2・3に基づき説明し、各委員にて了承された。質疑及び意見等は議事概要のとおり。
- (3) その他
 - ・新たな公共交通サービスの協議決定内容について
事務局より参考資料3・4に基づき説明し、質疑及び意見等は議事概要のとおり。
 - ・次回交通会議の日程について
事務局より次回開催日程は未定であるとの報告を行った。

●資料

資料1 委員名簿

資料2 令和5年度第5回富田林市交通会議（書面）の開催結果について

資料3 金剛バスの廃止に伴うレインボーバスの運行計画（案）について

参考資料1 レインボーバス時刻表・運行ルート

参考資料2 東條線におけるレインボーバスの活用について

参考資料3 金剛バス路線図

参考資料4 金剛バス廃止に伴う15路線の代替交通一覧表

●議事概要

案件

- (1) 令和5年度第5回富田林市交通会議（書面）の開催結果について
(2) 金剛バスの廃止に伴うレインボーバスの運行計画（案）について

北川委員 利用者には丁寧に周知説明をする必要があると事務局から説明があった。資料3の最後のページで、紙媒体と電子媒体とを両方使うということであったが、今のところ、どのような形で、誰を対象に、それぞれの紙媒体と電子媒体の活用を考えているか確認したい。例えば、回覧版やショッピングセンターごとに行うなど、考えはあるのか。

事務局 広報紙や、LINE、FacebookなどのSNSを活用して、できるだけ広く皆様に周知をしたいと考えている。

北川委員 富田林市公式のSNSがあるのか。

事務局 LINE、Facebook、Xなどがある。

北川委員 情報を共有する事が大事なので、よろしく願います。

西田委員 東條線へのレインボーバスの活用は「暫定的な措置として」となっているが、措置をいつまで行うのか、期限について見通しはあるのか。

事務局 正直なところ、期限を明言するのは非常に難しい。今回は緊急事態であり、また、慢性的な乗務員不足というところもあって、本来であれば東條線を運行する南海バスが必要な乗務員を確保できればいいのだが、なかなか確保が難しいというのが実情である。そこで、今回、近鉄バスの協力のもと、レインボーバスの乗務員を東條線に回してもらい、車両も併せて12月21日から活用することを予定している。今後、乗務員の確保ができ次第、レインボーバスを元の運行形態に戻したいとは考えているが、なにぶん乗務員不足という問題と、来年の4月からの2024年問題が重なるため、他の方策も含めて幅広く検討しながら、東條線の代替措置や、現行のレインボーバス路線の代替措置も含めて検討していきたいと考えている。

松田会長
(議長) 事務局から提案のあったレインボーバスの運行計画（案）については、承認ということでよろしいか。

各委員 異議なし

(3) その他

- ・新たな公共交通サービスの協議決定内容について

北川委員 富田林駅を起点にする新たな交通サービスが多くなることになるが、代替交通手段として一番多いのが自家用有償旅客運送であることが参考資料

から見てとれる。実際、自家用有償旅客運送はどのような形で運行がされるのか、それから、ドライバーの確保はどのようにしているのか確認したい。

事務局

主要5路線については、近鉄バスと南海バスに路線バス運行をお願いしているが、現行の金剛バスの便数と比較しても半分程度の便数になる。やはり、何度も言うように乗務員の関係もあり、これ以上の便数での運行は難しい。そのような中、何らかの補完をしなければならないというところで、特に河南町を中心に、自家用有償旅客運送の中の市町村運営の有償運送という、道路運送法に基づく手法を活用することになっている。また、5路線以外の路線についても、地域住民の移動手段として富田林駅を起点に運行しなければならないというところで、同じく河南町が補完運行を行うことになっている。千早赤阪村、太子町も同様の事情であるため、自家用有償旅客運送という手法を用いて、補完運行を行う。自家用有償旅客運送の乗務員の確保に関しては、それぞれ運行の委託を受ける事業者の方で、若干名ではあるものの、乗務員の確保ができるということで、運行をお願いすることになった。しかし、運行できる便数が5便程度や4便程度などとなっており、非常に厳しい状況ではある。少しでも補完できるようにというところで、可能な範囲内での乗務員の確保に至ったという流れになっている。

北川委員

車両はマイクロバスを活用するのか。

事務局

マイクロバスを活用する路線もある。しかし、それだけでは車両が不足しており、急な調達も難しいことから、金剛バスの車両を買い取って運行する路線もあると聞いている。

北川委員

これから名称など変えていかなければならない。今現在は路線図が1枚で分かりやすくなっているが、12月21日以後に、例えば富田林市外から富田林駅に来る方々のことを考えると、駅前の案内をどのようにするかなど検討していく必要があり、そのようなことについては交通会議の出番になってくると思うので、今後はそういうところも含めて、いろいろと示してもらえればと思う。また、今回このような事態が起きたことによって、公共交通に関する意識を引き上げていく、良い機会と言っているか分からないが、その機会が来たのではないかと思う。公共交通計画でいくつか目標を立てたと思うが、それを重点的に、どのように活性化すべきか、どこまで長く続けられるか、ということが最大の課題だと考える。そういう意味では今後、自家用有償旅客運送などを担ってくれるところをどう考えるか、そのような戦略を練っていく必要があると思う。これは1ヶ月後2ヶ月後の話ではなく、検討を重ねながら、我々も一緒に考えていくというスタンスがよいと思うので、よろしくお願ひする。

鬼迫委員 補完する路線も含めた当面の運営料金の考え方について、委員の皆様にお知らせするという意味も兼ねて、確認しておきたい。

事務局 12月21日からの新しい代替交通の運賃については、現在の今後バスの運賃をそのまま継承するという形をとることを予定している。ただ、運賃をこのまま継続するかということについては、金剛バスの運賃がそもそも他社と比べて安価に設定にされているところもあるので、今後、協議会の中で委員の皆様のご意見も聞きながら、適正な運賃設定を協議していきたいと思う。とりあえず12月21日以降は、現行の金剛バスの運賃を継承する予定である。

中塚委員 金剛バスの路線の2路線を南海バスが運行するというところで、実際に走るところを確認したところ、かなり狭く危険な場所もあった。南海バスとして富田林市に1年に1度、交通要請という形で、危ない箇所にカーブミラーの設置をお願いして市に対応してもらっている。実際、カーブミラーを設置してほしいと思っている場所があり、中学校の一番上のところで、上から10tトラックなどがかなり下りてくる。運行している中で、その交通要請を待たずして設置をお願いすることは可能か。もう1点、近鉄バスがレインボーバスで助っ人に来てくれることになっているが、その車両は、大型かそれとも中型か教えてほしい。

事務局 実際に運行してから、いろいろな問題が出てくることも多々あると思うので、そこはまた意見をもらえれば、道路管理者と協議させていただこうと思っている。また、東條線を補完運行する車両については、今のところの予定としては、とっぴーが描かれたレインボーバスの車両で運行することで考えている。

宮本委員 事務局の説明の中でレインボーバスの利用者への周知というテーマが一つあった。今現在運行しているレインボーバスが発着するのが富田林駅の北側であるが、東條線の補完運行をする際には、発着するのが富田林駅の南側になる。このため、乗り場が異なるということについては重点的に周知をお願いする。

松田会長
(議長) ご指摘のことについては、分かりやすく、周知に努めていきたいと思う。

高平委員 先ほど中塚委員から話のあった危険な場所については、府道の道路管理者にも伝えておく。また、バスの占用協議等についても、もう1ヶ月程しか期間がないので、あわせて協議の方をよろしく願います。

以上